

総合 佛教大辞典

「全一巻」



電子版



一冊本〈新装版〉として甦る 定評のある本格的仏教大辞典

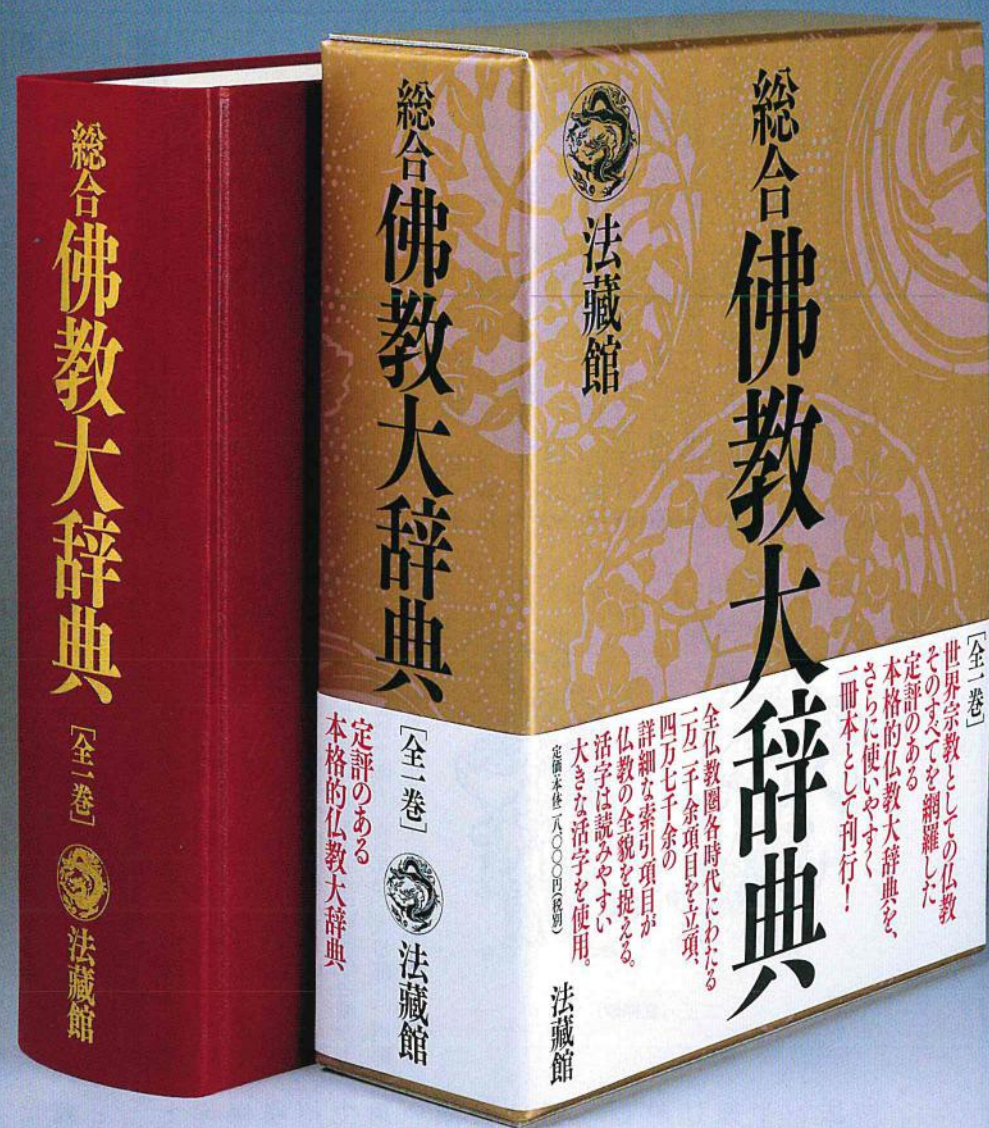
編集委員 横超慧日・多屋頼俊・藤島達朗・舟橋一哉
井ノ口泰淳・鎌田茂雄・櫻部建・園田香融

好評発売中

本体価格

同時1アクセス 六二、六〇〇円

同時3アクセス 一一三、二〇〇円



「全一巻」
世界宗教としての仏教
そのすべてを網羅した
定評のある
本格的仏教大辞典を、
さらに使いやすく、
一冊本として刊行！
全仏教圏各時代にわたる
二万七千余項目を立項
四万七千余の
詳細な索引項目が
仏教の全貌を捉える。
活字は読みやすい
大きな活字を使用。
定価本体 八〇〇円(税別) 法藏館

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-5656 FAX 075-371-0458
表示価格は税込(5%)です
<http://www.hozokan.co.jp>
e-mail: info@hozokan.co.jp

【電子版】総合佛教大辞典 全一巻

Product ID : KP00080934

読者対象

仏教学・仏教史・日本史・東洋史・国語史・
国文学・民俗学を専攻される学生・研究者。
仏教に深い関心をもたれる社会人及び団体。

取扱店

BOOKS
KINOKUNIYA 紀伊國屋書店

デジタル情報営業部

TEL:03-6910-0518 FAX:03-6420-1359

〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10

ict_ebook@kinokuniya.co.jp

仏教大辞典のなかで先駆的役割を果たした『総合佛教大辞典』は、本格的な仏教大辞典として高い評価を受けて今日にいたっておりますが、このたび読者の強い要望にお応えし、従来の三巻本を改めまして一冊本の〈新装版〉として生まれ変わることになりました。

二千数百年にわたりアジア文化の基底であり、精神のよりどころでもあった仏教は、二十一世紀を迎えてその期待はますます大きいものがあります。これは物質面では豊かな生活を謳歌しながらも、その一方でわれわれはこころに飢餓感があり、そして精神面の充足を求めているからに他なりません。

本辞典の編纂意図は、世界宗教としての仏教を正しく世に広めるための基礎づくりにあります。そのために、解説は何よりもまず正確で平易であることを心がけました。したがって、仏教の普遍性を明らかにするため、仏教を中心とした仏教思想をその原型において体系的にとらえること、また各時代・地域に生きた仏教の特殊性を明らかにするために、また、また各時代に地域に生きた仏教の特殊性を明らかにするために、仏教史学を中心に関連諸学の研究成果を十分に反映することに努めました。

今回の一冊本〈新装版〉を刊行するにあたり、基本図書として、さらに教養書として多くの読者のご活用を願うものです。

二〇〇五年一月

法蔵館

〔特色〕

●仏教学・仏教史学を中心に、文学・美術・民俗学・考古学など、関連諸学の研究成果を全面的に網羅しました。

●精緻な執筆メンバーによって、必要かつ十分な一万二千項目を厳選、中・小項目方針で仏教の思想や歴史を体系的・立体的に把握できるように工夫しました。

●インド・東南アジア・チベット・西域・中国・朝鮮、そして日本など仏教文化圏を広く範囲にカバーしました。

●経典・典籍・寺院・人物・遺跡・美術・仏具・行事・法会などが網羅されています。

●資料としても貴重な二六〇点余の図版・地図は文章の理解をさらにたすけます。

●四万七千余項目を採録した詳細な和文・欧文索引と、「仏教関係主要叢書目録」はたいへん便利です。

なんよう

1090

なんよう 南要 (嘉慶元1387—文明二1470)時宗の僧。弥阿と号した。京都(一説に美濃)の人。時宗一三祖尊明の門に入り、のち一六祖を嗣いだ。また藤沢の清浄光寺の第九世を継いで同寺を復興し、さらに美濃国垂井に金蓮寺を開いた。著書、四国廻巡記一卷。参考新編相模風土記稿一〇三、清浄光寺記録、遊行系譜

に

にいでら 二井寺 ↓極楽寺②
にえこうしがん 二廻向四願 浄土真宗教義の大綱を示す語。教行信証に「謹んで浄土真宗を按ずるに二種の廻向あり。一には往相、二には還相なり。往相の廻向に就て真実の教行信証あり」と説く。即ち、衆生が極楽に往生する因果(教行信証の四法)も、極楽に往生した後に再びこの世に還つて他の衆生を救う能力も、共に阿弥陀仏が衆生に与えるものであることを二廻向とし、このうち往相廻向に第十七(行)または教をも含む)・第十八(信)・第十一(証)の三願を配し(↓四法三願)が、還相廻向に第二十二願を配するから、二廻向四願という

へ↓本願。なお、教を往相廻向におさめるか否かについては異説がある(文類聚鈔に教を除いて行信証を往相廻向とし、本願力の廻向に二種ありと示すのによる)。
におう 二王 寺院の建物を守るために寺門の左右両側に安置してある金剛力士の像。二王尊、二天ともいう。一は開口し、一は閉口しているが、これは阿と吽との二字によって万物の始終を表わしているといわれ、二像を密迹金剛(左)と那羅延金剛(右)、密迹と金剛、金剛と力士などに分けて名づけることがあるが、これは密迹金剛力士と呼ばれる一体の名を分けたのにすぎない。この二王尊を安置してある門を二王門(仁王門)という。(参考大宝積經密迹金剛力士会、仏入涅槃密迹金剛力士哀恋經、大日經三、南都七大寺巡礼記(元興寺の条)、秘蔵記私本抄三、和漢



二王 (寛禪鈔)

三才図会二九、塩尻三一

にがつどう 二月堂 ↓東大寺

にがびやくどうす 二河白道図 善導の觀經疏散善義に説かれる二河白道の譬喩を描いた絵画。群賊悪獸に追われた人が西に向かつて逃げてゆき、水と火に挟まれた幅の狭い白道に出会って進退兩難に陥ったとき、東岸からは白道を進んで難を逃れよと勧められ、西岸からは白道を渡り来たれと招かれ、遂に心を決めて白道を渡って西岸に至り福を受けたという。水・火の二河は衆生の貪愛と瞋恚に、白道は清浄な信心に喩え、東岸の釈迦の勧めと西岸の阿弥陀の招きとによって、人は願心を生じ浄土に往生することを示す。図絵では下方の前景に東岸の娑婆世界、中景には願生者がゆく細い白道、上方の遠景には西岸の極楽浄土が描かれている。京都光明寺蔵の絹本着色二河白道図(鎌倉中期、重文)が有名。

ニガンタ・ナータプッタ Nigantaha

Nataputa ↓尼乾陀若提子

にきよう 二教 ①仏教を二種に分類したもの。教説の意味内容、実践の方法、説法形式、教えを説く者(教主)、教えを受ける対象などの差異によって分けられ、多種の説がある。即ち(イ)小乗教と大乘教。(ロ)半字教(声聞蔵)と満字教(菩薩蔵)。(ハ)生空教(人無我のみを説いた教え)と法空教(人法二無我を説いた教え)。(ヘ) (ロ)はほぼ同じ意味。(ニ)頓教と漸教。